

# 萬華のおでん屋の欧吉桑たち

吉田 信解 ● 理事  
埼玉県本庄市長



今から二十七年前の平成元年の暮れ、台北萬

華市場のおでん屋で、仲良くなった台湾人の

「欧吉桑」たちと一杯やりながら、日本語で語

り合った内容を、うろ覚えですが再現します。

欧吉桑「我等の時代終わったネ。陛下亡くなら

れた。ひばりちゃんも裕次郎も死んだネ…」

私「おじさん、陛下は分かるけど、ひばりも裕

次郎も戦後の人だよ、関係ないでしょ」

別の欧吉桑「キサマ分かってない。日本負け

た、日本人帰った、でも台湾人ずっとラジオ聴

いてた、内地の、日本の歌。だからひばりちゃ

ん、裕次郎、オレたちの歌ネ…」

「俺はこういう人たちの存在を知らなかった」

……感動と申し訳なき、その時の気持ちだが、今

も懐かしく涙ぐんで思い出されます。

「共産党は中国古来の文化を破壊し、今また自

分たちと同じ学生を弾圧（天安門事件）した。

あんなところで学べるか。俺は中国文化も中国語も、学ぶ先は「自由中国」の中華民国だ」。

そう妙に勇んで平成元（一九八九）年夏、大学の単位交換ができる国立台湾師範大学国語中心（北京語センター）に留学した私でした。意中に「台湾」が欠落していた私でした。

授業は分かりやすく、先生方も歴史文化に教養ある方々が多く、古き中国をダイジェストで学ぶ気分でした。今や忘れかけの北京語ですが、会話すると「あなたの国語は正確（標準）だ」と言われます。先生方には本当に感謝しています。

しかし外に出て台北の下町に行くと、そこは台湾訛の強い北京語（台湾国語）と、北京語とはまったく異なる台湾語（福佬語）が飛び交う世界。そして高齢者からは日本語で喋りかけられ、こちらが北京語で返すと「ワタシ北京語シ

「ライ」と返され、その後は日本語で会話が弾むのです。

ああ、あれほど「俺は中国について学ぶぞ！」と勇んできた私が、いつしか辿り着いたのは、冒頭に紹介した、萬華市場の「関東煮<sup>かんとうだき</sup>」の看板を掲げたおでん屋でした。熱爛恋しさに何回も通って仲良くなった欧吉桑たち。「日本時代は厳しかったが、泥棒いなかった。シナ人来てダメになった。イヌ去ってブタが来た」という、あのお決まりの話も聞きました。酔っぱらってくると、軍歌を唄い「キサマなぜシナ人の言葉習うか、バカヤロ」。

爺さんや伯父さんと過ごしたような懐かしい思い出です。あの欧吉桑たち、多くは鬼籍に入られたでしょう。日本の大学では絶対に習わないう生の声を伝えてくれた、私の先生たちです。

留学して七か月後、三月学運（野百合運動<sup>のゆり</sup>）が発生。起きる理由はすてによく理解できるようになっていた私でした。大陸由来の巨大な虚構の体制を清算せよ、万年議員は辞める、という学生の要求はもつともだと、外省人系教授が

ほとんどの師範大国語中心においてさえ、多くの先生方はそう仰っていました。

当時、私は日本の雑誌記者の手伝いで中正紀念堂広場へ。三月十八日の民進党と学生の大集会を壇上から撮った日本の学生は俺一人、と自負しています。数日後、学生代表と直に会い事態を解決に導き、その後、学生と民衆の力をテコに台湾の民主化へ道を切り拓かれた李登輝總統は、ずっと私の最も尊敬する政治家です。

これまで市議、市長と地方政治に身を置き多忙な毎日でしたが、様々なことを学んだ台湾、そして「台湾」を学べた台湾、を忘れたことはなく、いつか日台友好のためお役に立ちたいと思っていました。今般、日本李登輝友の会理事のお役を拜命し大変光榮に存じます。

萬華のおでん屋のあの欧吉桑たちの、日本への切ない思いを忘れない……。

将来、日本と台湾が正常な国と国との関係になり、東アジアの平和と安定、民主主義と自由な世界を支えるパートナーとして永遠に共榮できるようお願い、微力ながら尽くして参ります。